

1 主題設定の理由

TwitterやInstagramなど、生徒たちがスマートフォンを用いて情報を送受信する機会は格段に多くなっている。このような環境において、受け取った情報の真偽を見抜く力が求められている。そこで、本校生徒の情報活用の実態を把握すべく、「社会と情報」を履修している1年生2クラスを対象に、インターネット上の情報の信憑性についてアンケートを実施した(図1)。その結果、「インターネット上の情報は信憑性が低いことを知っている。」という質問に、「はい」と答えた生徒は96%であった。しかし、「インターネットを利用する際に情報を疑っているか。」という質問では、「常に疑っている」が12%、「疑う時がある」が73%、「正しいかどうか気にしない」が15%という結果であった。この結果から、情報の信憑性については、授業で習って知っているものの、実生活には生かせていないことが読み取れた。そこで、生徒がデマの拡散に手を貸すことがないように、情報の真偽を見極める能力を身に付けさせる必要があると考え主題を設定した。

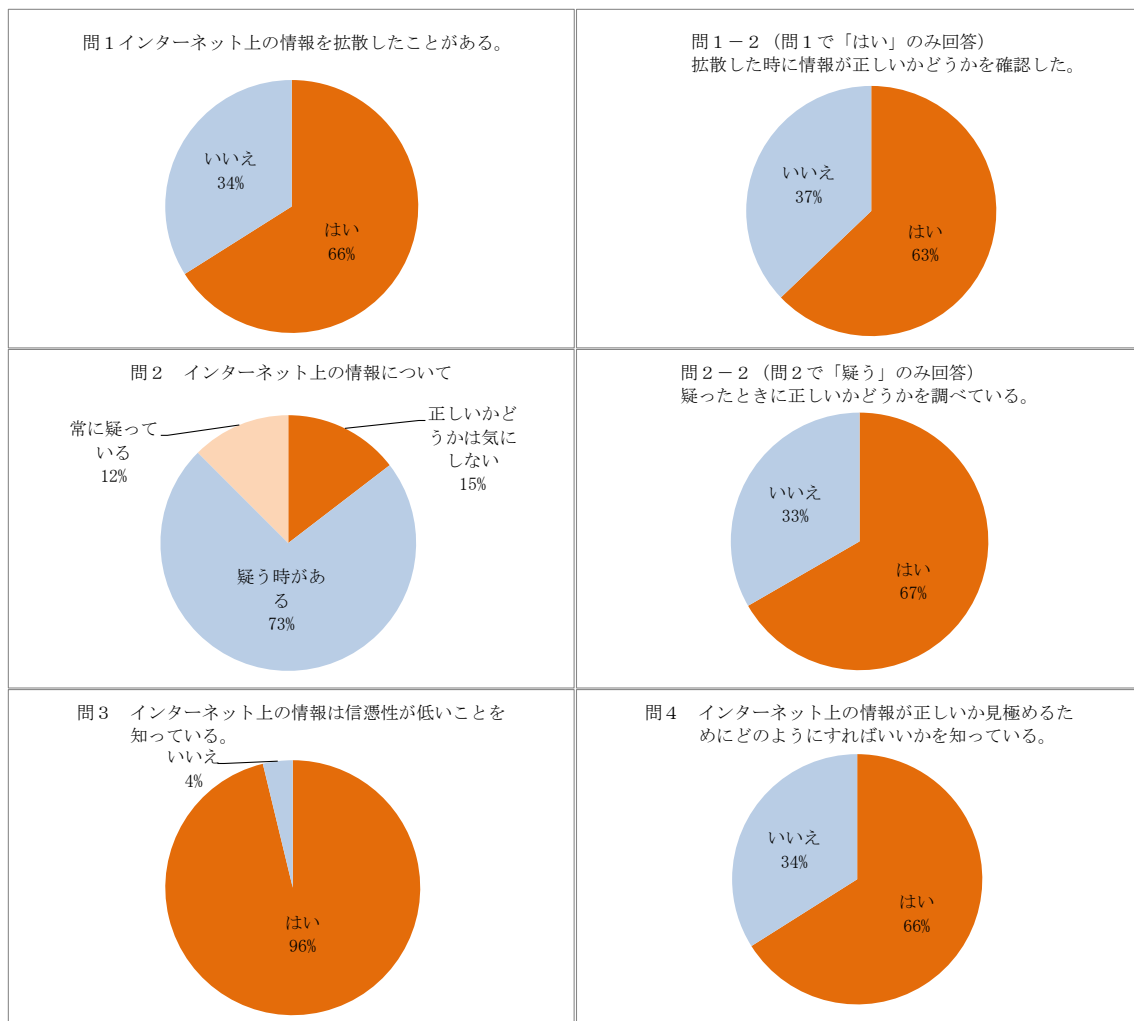


図1 事前アンケート結果

2 授業実践

(1) 学習指導案

学 習 指 導 案

授業者

本田 知仁

学 科	普通科	学年・組		日時		教室	パソコン室	使用教科書	改訂版 社会と情報 (第一学習社)
-----	-----	------	--	----	--	----	-------	-------	----------------------

単 元	情報の活用と表現		
指 導 目 標	多くの情報が公開され流通している現状を認識させるとともに、情報を保護することの必要性とそのための個人の責任を理解させる。	指 導 計 画	1 情報とその活用 …… 4時間 (本時はその2時間目) 2 情報の表現 …… 6時間

本時の指導

主 題	情報の真偽を見極める。				
前時の課題	虚偽情報を信じてしまったために起きた事例を調べてくる。				
本時の目標	1 情報の真偽を見極めるポイントに気付かせ発表させる。 2 複数のサイトで情報を確かめることの大切さを理解させる。				
指 導 過 程	学 習 活 動	時 間	指導上の留意事項	資料・評価基準等	
	導 入	本時の目標を確認する。	2 (分)	・本時の目標を明確に理解させる。	ワークシート
	展 開	1 虚偽情報を信じてしまったために起きた事例を発表する。	5	・虚偽情報によりもたらされる問題が自分にも起こり得ることを確認させる。	【評価規準】 ○情報を見極める方法を班員と協力して考え出し、導き出した考えを発表できる。(思考・判断・表現)
		2 文章を読んで虚偽情報について考える。 (1) 疑うべき部分を考える。 (2) 正しい情報を見極めるポイントを考える。 (3) 発表する。	15	・班で情報を読み解くことで、情報を見極めるポイントを見つけさせる。 ・班員全員で協力して考察させる。	【評価方法】 ○ワークシートの記述内容 ○発表内容
	閉	3 インターネットで情報を検索する。 (1) 正しい情報を見極めるポイントを意識しながら検索する。 (2) 発表を行う。	25	・検索を通して、複数のサイトにより真偽を確認することの大切さを理解させる。	【評価規準】 ○複数のサイトで情報を確かめることの大切さを理解し、知識を身に付けている。(知識・理解) 【評価方法】 ○行動観察 ○ワークシートの記述内容
整 理	本時のまとめを行う。	3	・常に情報の真偽を確認することが重要であることを理解させる。		
備 考					

(2) 実践内容

以下の内容で、対話的・実践的な授業を行った。

ア 虚偽情報を信じてしまったために起きた事例を調べさせる。

イ 教員が提示した文章から疑うべき部分を見付け出させ、正しい情報を見極めるポイントを班で考えさせる。

ウ 考え出したポイントを意識しながら、「ディズニーランドに蚊はいないらしい。」という内容に対し、「いる」「いない」に分かれインターネットで検索をさせる。

(3) 実践上の工夫

ア 対話的活動

4人1班でグループになり、「正しい情報を見極めるポイント」「インターネットによる検索」において対話的活動を行った。「インターネットによる検索」では、班で「いる」「いない」に分かれて検索させ、その結果を共有させることで時間の短縮と情報を整理し伝える力の向上を図った。

イ リアルタイムでの情報共有

パワーポイントのスライドに文字入力スペースを用意しておき、生徒表示用ではないディスプレイ側（マルチディスプレイ環境）に置いておく。生徒に発表させると同時に直接スライドに文字を入力することで、生徒の画面にリアルタイムで発表内容が表示されるようにした。（図2）

また、検索結果の入力をオンライン上で行った。OneDriveに入力用Wordファイルを置いておき生徒にアクセスさせ、Word Onlineを利用して班員全員で同時編集させた。（図3）

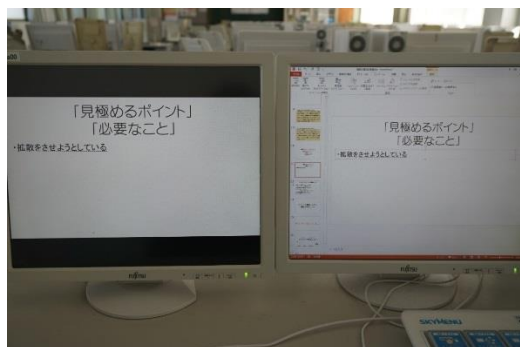


図2 パワーポイント

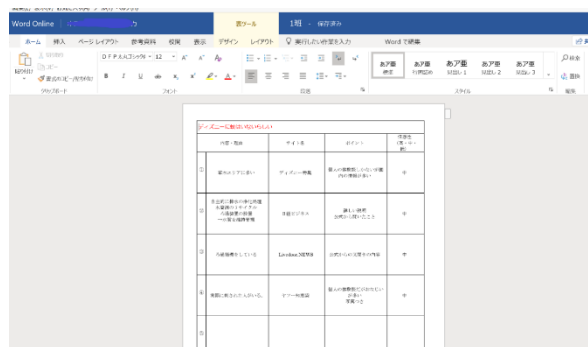


図3 Word Online

3 結果・考察

「リアルタイムでの情報共有」により、生徒の意見や調べた結果を個々のパソコンに表示させた状態で発表を行わせることで、視覚的に情報の共有化ができた。しかし、「Word Online」の活用では、本校のインターネット回線では速度が遅く、ファイルが開くまでに時間が掛かる端末やエラーが表示される端末があり、処理に時間が掛かってしまった。そのため、結果の入力に時間が掛かり十分に話し合いをさせる時間を取ることができなかった。

また、授業実践前後で4項目・5段階の自己評価（5が「できる」）を行わせた。（図4）全ての項目で評価が1段階上がっており、生徒の「情報の真偽を確かめること」への理解が深まっていることが確認できた。この結果から、対話的・実践的な授業により、生徒の理解を深めさせ、情報活用の実践力を向上させることができたと考えられる。しかし、今回の結果だけでは、生徒が実際にSNSを利用する際に、情報の真偽を確かめることができるかは分からない。今後も、情報モラルに関する継続的な授業や生徒の実態調査を行っていく必要がある。

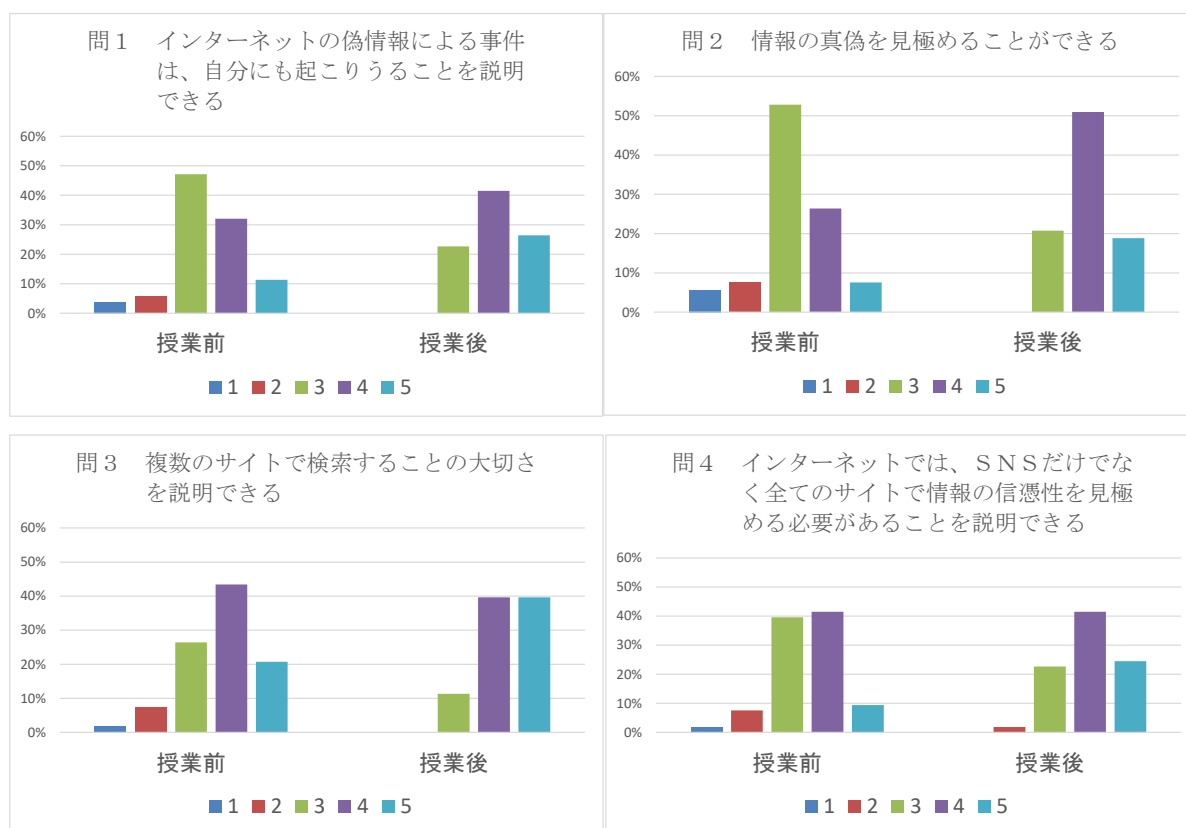


図4 授業前後自己評価結果 1（できない）～5（できる）

4 まとめ

生徒が情報活用能力を身に付けるためには、情報モラルの理解と実践力の育成が不可欠である。情報モラルに関しては、1学期に机上での話合いで授業を行っているが、今回の方が生徒は積極的に活動をしていた。今回の授業実践を通して、「生徒の深い学び」につなげるためには対話的・実践的な授業が効果的であると強く感じた。今後は、情報の発信者としての責任など、情報モラル全般について、実生活に生かすための効果的な授業実践方法の研究を進めていきたい。